

製品名: Frizzled-7 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11148**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,FC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:100-1:500,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:50-1:200
分子量	64kDa

抗原情報

遺伝子名	FZD7
別名	FZD7; Frizzled-7; Fz-7; hFz7; FzE3
遺伝子 ID	8324.0
SwissProt ID	O75084
免疫原	抗血清はヒト FZD7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 45-94

背景

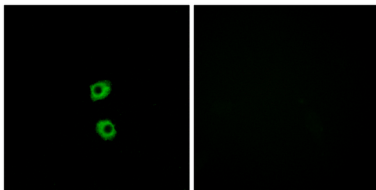
frizzled クラス受容体 7 (FZD7) ホモ・サピエンス 「frizzled」 遺伝子ファミリーのメンバーは、Wnt シグナル伝達タンパク質の受容体である 7 つの膜貫通ドメインタンパク質をコードしています。FZD7 タンパク質は、N 末端シグナル配列、Fz ファミリーメン

バーのシステインリッチ細胞外ドメインに典型的な 10 個のシステイン残基、7つの推定膜貫通ドメイン、および PDZ ドメイン結合モチーフを含む細胞内 C 末端テールを含みます。FZD7 遺伝子発現は、低分化ヒト食道癌において APC 機能をダウンレギュレーションし、 β -カテニンを介したシグナル伝達を増強する可能性があります。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],domain:Lys-Thr-X-X-Trp モチーフは、Wnt/ β -カテニンシグナル伝達経路の活性化に関与しています。 ,domain:FZ ドメインは、Wnt リガンドとの結合に関与しています。 ,function:Wnt タンパク質の受容体。 frizzled 受容体のほとんどは、 β -カテニンの標準的なシグナル伝達経路に結合しており、disheveled タンパク質の活性化、GSK-3 キナーゼの阻害、 β -カテニンの核内蓄積、および Wnt 標的遺伝子の活性化につながります。 PKC とカルシウムフラックスが関与する 2 番目のシグナル伝達経路が、一部のファミリーメンバーで確認されていますが、PKC は Wnt を介した GSK-3 キナーゼの不活性化に必要であると思われるため、それが別の経路を表すのか、または標準的な経路に統合できるのかはまだ明らかではありません。どちらの経路も G タンパク質との相互作用に関与しているようです。組織形態形成過程および / または分化組織における極性情報の伝達および細胞間伝達に関与している可能性がある。 ,類似性: G タンパク質共役受容体 Fz/Smo ファミリーに属する。 ,類似性: 1 つの FZ (frizzled) ドメインを含む。 ,サブユニット: MAG13 と相互作用する。 ,組織特異性: 成体骨格筋および胎児腎臓で高い発現を示し、次いで胎児肺、成体心臓、脳、胎盤で高い発現を示す。特に食道扁平上皮癌で発現が顕著である。 ,

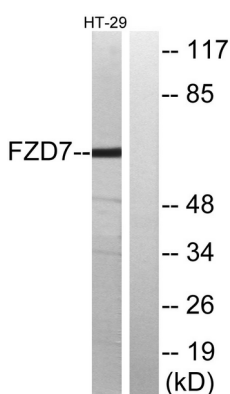
研究分野

WNT、WNT-T 細胞、メラニン生成、がんの経路、大腸がん、基底細胞がん

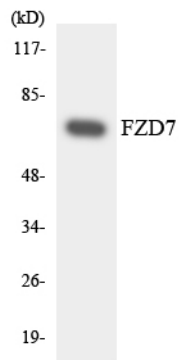
画像データ



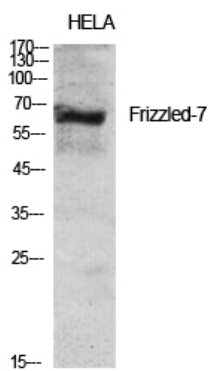
FZD7 抗体を用いた MCF7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



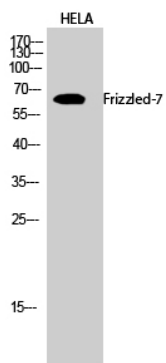
FZD7 抗体を用いた HT-29 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



FZD7 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 2000 に希釈した Frizzled-7 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



1: 2000 に希釈した Frizzled-7 ポリクローナル抗体を用いた HELA 細胞のウェスタンブロット解析